

2010年度

# 新潟大学国際センター 年報

Annual Report  
of Niigata University  
International Exchange Support Center  
2010



## 宮田 春夫

### 研究テーマ：環境と開発に関する南北関係

多様な主体が多様な役割を果たす複合的相互依存の国際社会において、環境と開発のための南北関係はどうあるべきか、全地球的レベルから地域共同体レベルまで、また、多国籍間協力、二国間協力を包括的に捉えて、政策のあり方を探っていきたいと考えています。

また、教育においては、理論と現実の両方を見ることにより、理論を現実に即して理解すること、また、対応を理論に基づきつつ現実に即したものとすることができる学生を育てたいと考えています。

所属学会：国際開発学会、環境科学会、International Studies Association

### 1. 授業等

「教養教育に関する科目」及び課題別副専攻「平和学」の授業のほか、農学部及び現代社会文化研究科の授業も担当しました。

学部レベルで英語で開講している教養教育に関する科目は、短期交換留学プログラム科目としても重複指定されています。そのほかにも、課題別副専攻「平和学」に指定されている科目があります。

課題別副専攻「平和学」として単独開講している科目の一部は、開発途上国の問題に強い関心を持つ学部生・大学院生のために始めた勉強会を正式な授業としたものです。

#### 本学における担当授業一覧

開講期	授業科目名	備考
春	Applied Research of International Relations: North-South Relations for the Environment and Development	教養教育に関する科目。短期交換留学生用科目としても指定。 環境と開発を巡る南北関係に関わる諸課題と政策のあり方。大学院用の内容を、学部生向けの評価方法にして開講。
	Environmental Policy Study: History of Environmental Problems and Development of Policies in Japan	教養教育に関する科目。短期交換留学生用開講科目としても指定。 明治から現在に至る日本の環境問題の歴史と政策の展開を見ながら、どのような環境問題の変化、社会の変化、国際関係により環境政策が変わって来たのかを論じる。
	国際開発協力演習（環境と開発）	課題別副専攻「平和学」科目。 開発援助と環境の事例について、政府、非政府の援助関係者から直接話を聞く機会をも取り入れて、意図通りまたは真にそれを必要としている人に届く援助の難しさという現実を直視した上で、積極的に評価できる面を評価し、そうでない面についてはどのようにしたら改善できるのかを学生が考える機会を提供。

	国際開発協力論：「開発」概念 I	課題別副専攻「平和学」科目。 OECD 開発局の職員たちが書いた「開発」についての考え方の変遷を紹介した本（英語）を使い、どのようにして「開発」についての認識が深まっていったか、どのような背景の下に各々の開発理論が論じられたか、それぞれの開発理論がどのように開発援助等に影響したか等を論じる。
秋	国際開発協力論：「開発」概念 II	課題別副専攻「平和学」科目。 「改革派」とされる考え方の流れを汲む Amartya Sen が「 <i>Development as Freedom</i> 」(英語原著) で整理した「開発」の幅広い概念を学ぶ。
	North-South Relations for the Environment and Development	現代社会文化研究科。 環境と開発を巡る南北関係に関わる諸課題と政策のあり方。
	人類共同体のための国際環境政策学	教養教育に関する科目。課題別副専攻「平和学」科目としても指定。 どうして環境に関する国際協力を行うかに重点を置いて、背景の国際秩序の課題、「持続可能な開発」の本来の意味、「地球環境問題」と捉える無意識の課題認識、「持続可能な開発」の状況を示すエコロジカルフットプリント、国際協力の歴史等の基礎について論じた上で、多国間協力、条約、ODA 等の個別課題について論考。
	平和を考える in 新潟	教養教育に関する科目。課題別副専攻「平和学」科目としても指定。 複数の教員や外部講師の講義による授業の 1 コマを担当し、「開発途上「国民国家」の外と中の秩序」と題して、「民族」や「宗教」によるものと思われている紛争の問題について論考。
	平和学総合演習	課題別副専攻「平和学」科目。他の副専攻「平和学」委員と共同で担当。 副専攻修了認定予定学生 2 名に対する論文指導。
	自然環境関連法規	農学部専門科目。複数教員分担のうち主に条約に関する 2 コマ及び学生の課題発表でのコメント等。
集中講義	開発途上国の環境と開発：事例研究	教養教育に関する科目。課題別副専攻「平和学」指定科目。 一種の集中講義として、9月の2週間のマダガスカル現地調査を中心に開講の予定であったが、現地の政治情勢により条件が整わないことにより2010年度は実施を断念。 しかし、駐日大使館主催のマダガスカル独立 50 周年祝賀会、在日マダガスカル人学生会主催の独立 50 周年記念行事等に引き続き参加し、同国関係者との関係維持に努力。

以上のほかに、正式な開講教員として登録されていませんが、課題別副専攻「平和学」科目である「平和学入門」（春学期）のうち 4 コマ（「南北問題・人間開発」及び「環境問題」）は、

私の専門に関わる内容であるため、担当教員と共同で講義しました。

また、非常勤講師を確保して新規に実現させた「平和と現代の国際（グローバル）安全保障論」（副専攻「平和学」科目、春学期）についても、全コマ同席し、必要なコメント等を行いました。

なお、授業等の負担軽減のため、理学部自然環境科学科専門科目「環境政策論」は、2010年度から担当を取りやめさせて頂きました。

後期の負担の軽減のため、Environmental Policy Study: History of Environmental Problems and Development of Policies in Japan を前期に移動させました。

通常の授業のほか、副指導教員として、現代社会文化研究科修士課程の学生1名（留学生。2011年9月修了予定）の修士論文の指導も行いました。また、正式な位置づけはありませんが、Amartya Sen の *Development as Freedom* (1999) や *The Idea of Justice* (2009) などを基にした人文学部4年生の開発と正義に関する卒業論文の指導も行いました。

## 2. 課題別副専攻「平和学」

2008年12月から課題別副専攻「平和学」委員会に参加し、2009年4月から同委員会の代表を務めています（副専攻自体は大学の教育課程に位置づけた明確な制度ですが、各副専攻の委員はボランティアです。）。この立場から、課題別副専攻「平和学」の修了ペーパー（2名）の指導、審査、非常勤講師との連絡・調整、副専攻の運営の調整、管理等を行いました。また、平和学の主要課題のうち、これまでの開講科目では欠けていた安全保障論の講師を発掘し、2010年度からの開講を実現しました。

副専攻「平和学」の履修者のエクスカージョンとして、新潟水俣病の「語り部」のお話を聞く会を実施しました。

## 3. 学生による日本とカンボジアのビデオレター交流プロジェクト

学生たちによる「新潟大学ビデオレター交流プロジェクトグループ」が、新潟市立内野中学校の生徒とカンボジア・バコン村の孤児院付帯の英語教室の生徒の間のビデオレターの交換を行うことを企画した際、教員の関与が必要との中学校の判断を受けて、同グループの顧問として助言等に当たりました。また、3月には、学生たちが中学校で撮影し編集したビデオレターをカンボジアで上映するとともに、カンボジアの生徒たちのビデオレターを撮影してくる現地作業に同行しました。その際、学生たちが、今日のカンボジアが抱える戦争の傷跡、格差、不正等について幅広く理解できるよう、まずベトナムに立ち寄ってインドシナ戦争等についても学べるようにしました。

カンボジアで撮影したビデオレターは、編集の後、2011年度になってから内野中学校の生徒たちのために上映の予定です。



南ベトナム民族解放戦線の打ち合わせ場所であったホーチミン市内のそば屋の2階の部屋



英語教室のある孤児院（長い対米戦争と内戦の結果、カンボジアには多数の孤児がいます。）



内野中学校からのビデオレターを見るカンボジアの生徒たち

#### 4. 研究活動

##### (1) 学会活動

国際開発学会（6月、12月）、International Studies Association（3月）等に参加してコメンテーターを務める等、議論するとともに、国際開発学会の会計委員会の業務の一部に関わりました。

##### (2) フィールド・スタディーに関する研究会

「百聞プラス一見」の力を学生につけさせるべく、授業で知識を得ることに加えて、効果的かつ安全に開発途上国の現場を見る機会を重視しているため、引き続き、「大学教育における「海外体験学習」研究会」（9月）等に参加し、また、海外留学生安全対策協議会の危機管理セミナー等にも参加して、実施に関わる課題の研究や情報の維持に努めています。

#### 5. 開発途上国との協力、開発途上国の実情等を知り、同じ人類社会の未来を共有していることを理解するための特別講義等

開発途上国との協力、開発途上国の実情等を知り、同じ人類社会の未来を共有していることを理解するため、実際に協力に従事している方等から講演等して頂いて具体的な知識を得る会を、一部については課題別副専攻「平和学」の開講科目「国際開発協力演習（環境と開発）」と関連付けつつも、その科目の履修生以外にも開放し、また、特に意義があるものについては学外にも開放して企画・開催しています。多くの場合、テーマは、開発途上国との協力に関心を持っている学生たちの希望を考慮して選定しています。

なお、2009年度には外部講師の旅費等の経費は私の研究費と課題別副専攻「平和学」の経費から負担しましたが、2010年度は、にいがた青年海外協力隊を育てる会が「出前講座」として、全額負担して下さいました。

##### (1) 青年海外協力隊の経験をお聞きする会

7月4日、学生たちの希望に従い、にいがた青年海外協力隊を育てる会が始めた「出前講座」による支援を頂いて、ミクロネシアの小学校に派遣されていた小学校教師の方から経験談等をお聞きする機会を設けました。

##### (2) 開発途上国関連の助言等

ODA 関連機関・企業、国際機関等、開発途上国関連の職に就きたいとする学生からの相談がしばしば寄せられ、進学先、就職のための諸条件等について助言しています。なお、私が助言した学生のうち1名が、青年海外協力隊の試験に合格し、2011年度に派遣されることになりました。

#### 6. 多大学間交換留学

アジア・太平洋多大学間交流（University Mobility in Asia and the Pacific: UMAP）のオンライン学生交流システム（UMAP Student Connection Online: USCO）の担当者としてその仕組みを研究した結果、本学でも2010年度受け入れ分から受け入れることになりました。2010年秋に韓国からの学生1名を初めて受け入れることが決まったものの、その学生は、個人的理由によるとして留学を辞退することとなりました。しかし、2011年春にタイの学生2名を受け入れることが決まり、3月の東日本大地震による放射能問題で半数以上の交換留學生が取りや

め若しくは延期する中、この2名は来日することになり、この2人に対し、本学への留学に関わる助言等を行いました。

また、多大学間交流を補完するものとしてUSCOが認めている二大学間学生交換についても、Universiti Sains Malaysia との間の実施の決定に関わりました。

## 7. 社会貢献等

7月、敬和学園大学、新潟医療福祉大学等の職員、教員、学生等が、特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会等とともに、同法人の運営するルワンダの小学校の運営費等を集めるとともに、ルワンダについての理解を広めようと、コンサートを実施しました。その準備過程で、実行委員会の要請に応じ、「開発」とは何か、開発途上国の直面する課題等についての勉強会を開催しました。



新潟総局  
〒951-8133  
新潟市中央1-147-2  
☎ 025-266-2151  
fax 025-266-2155  
mail niigata@nissp.com

長岡支局  
〒940-0061  
長岡市城内3-3-1  
☎ 0258-35-1234

上越支局  
〒943-0805  
上越市木田2-1-1  
山形ビル南  
☎ 025-526-6333

佐渡支局  
☎ 0259-27-3516

柏崎支局  
☎ 0257-22-2555

新発田支局  
☎ 0254-22-2080

元町支局  
☎ 025-772-2660

# ルワンダの平和願って 学生がコンサート企画

## 敬和・医療福祉・新潟・長岡技術科学 学校建設支援

1994年に80万人以上が犠牲になつたとされる大虐殺が起きたアフリカのルワンダ。敬和学園大学、新潟医療福祉大学、新潟大学、長岡技術科学大学の学生ら16人による実行委員会が、同国の平和を願い、ルワンダでの学校建設を支援するためのコンサートの準備を進めている。

(戸松康雄)

コンサートは18日午後2時から、新発田市中央町5丁目、新発田市生涯学習センター15号館で、第1部は、両親と兄弟が犠牲になつた音楽家ジャン・ポール・サンブトゥ氏の音楽家サンブトゥ氏あす新発田でも公演

ジャン・ポール・サンブトゥ氏は写真＝新発田市での公演に先立ち、5日午後1時半から、新潟市西蒲区の市巻文化会館でも公演する。地元小学生を対象に企画されたものだが、一般の人でも入場できる。無料。問い合わせは巻地区まちづくり協議会（0256・72・8736）へ。

コンサートは18日午後2時から、新発田市中央町5丁目、新発田市生涯学習センター15号館で、第1部は、両親と兄弟が犠牲になつた音楽家ジャン・ポール・サンブトゥ氏の音楽家サンブトゥ氏あす新発田でも公演

ジャン・ポール・サンブトゥ氏は写真＝新発田市での公演に先立ち、5日午後1時半から、新潟市西蒲区の市巻文化会館でも公演する。地元小学生を対象に企画されたものだが、一般の人でも入場できる。無料。問い合わせは巻地区まちづくり協議会（0256・72・8736）へ。

企画のきっかけは昨年5月、大虐殺が起きる前のルワンダで教員を務め、現在は福島市のNPO法人「ルワンダの教育を考える会」で、現地の学校建設に尽力するカンベンガ・マリールイス副理事長（現在は理事長）の講演だった。新潟市での講演に参加した敬和学園大職員（高橋智美さん28）に、サンブトゥ氏が今年夏に公演のため来日するとの話が寄せられた。

高橋さんは学内の学生や他大学の知人に声をかけて、県内公演に向けた実行委員会を結成。新潟大国際センターの宮田春夫教授を顧問にも開き、「金銭的な支援よりも、自分たちの生活を向上させようという力を伸ばすための支援が重要」との話を耳を傾けた。

いずれも敬和学園大4年の松橋奈未さん(21)は「お金をあげることも、もっと他にやるべきことがあると改めて感じた」。村山樹さん(21)は「現地の人々の心に傷が残っていることがわかった。人を憐れむのではなく、教育を通じて平和を取り戻そう」という活動を応援したいと話している。

前売り券は一般2千円、大学・高校生1800円、小学生千円(当日は各200円増)、未就学児は無料。問い合わせは高橋さん(02564・22・2880)へ。

新潟大の宮田教授(右)から話を聞く実行委員会のメンバー＝新潟市中央区の新潟大学駅前キャンパス「ときめいと」



## 8. その他

次のところにウェブサイト을設け、授業についての詳細情報の提供等を行っています。

<http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/>